令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大宮南中学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】学年と教科によってはC評価が2割を超えるものがある。引き続き指導と評価の改善に取り組む必要がある。 【指導上の課題】ICT機器の活用の効果的な場面を考え、身に付けた力を活用することの喜びを実感できるような展開を考える必要がある。	⇒	各教科において、「さいたま市の学校教育　推進の指針・指導の努力点」を確実に把握しながら、資質・能力における評価規準による評価指針を見直し、≪深い学びの鍵≫である見方・考え方をさらに意識した授業改善を行っていく。また、今後も評価を集計し、全体で周知しながら各教科において生徒の習熟度を把握し、各教職員に広く伝えていく。【評価方法】学年末の評価において、C評価の生徒が1割以下。さいたま市学習状況調査結果の「学びに向かう力等」において各項目の向上。
思考・判断・表現	【学習上の課題】学年と教科によってはC評価が3割を超えるものもある。引き続き指導と評価の改善に取り組む必要がある。 【指導上の課題】ICT機器の活用の効果的な場面を考え、身に付けた力を活用することの喜びを実感できるような展開を考える必要がある。	⇒	各教科において、「さいたま市の学校教育　推進の指針・指導の努力点」を確実に把握しながら、資質・能力における評価規準による評価指針を見直し、≪深い学びの鍵≫である見方・考え方をさらに意識した授業改善を行っていく。学校課題研究でも、主体的に学習に取り組む態度をテーマに研究を計画し、各教職員に広く伝えていく。【評価方法】学年末の評価において、C評価の生徒が1割以下。さいたま市学習状況調査結果の「学びに向かう力等」において各項目の向上。

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語において「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られた。漢字に関しては、無回答率が全国と比較して高く、全体的な正答率が高いことも鑑みて、個々の定着の差が大きい。また、表現の技法についての理解では、全体的な正答率が全国と比較して低いが、無回答がなかったため、正しい知識・技能を育成していく必要がある。 数学において、全体的な結果では正答率に関して良好な結果を得ることができたが、「式とグラフの特徴を関連づけて理解しているか」という内容において、無回答率が全国と比較して高かった。国語と同様に、個々の定着の差が見受けられるので、個別に正しい知識・技能を育成していく必要がある。
思考・判断・表現	国語において「読むこと」、特に、文章と図を結び付けて解釈することに課題が見られた。また、「話すこと・聞くこと」において、内容を捉えることに課題が見られる。数学においては問題形式が「記述式」の無回答率が全国や県と比較して高く、読み取ったり説明したりすることに課題が見られた。 国語と数学において、共通する課題として自己の表現は得意ではあるが、他者の考えや多方面から得た情報から思考する力を今後身に付けていく必要がある。

③ 中間期報告 / 中間期見直し

	中間期報告 評価（※）	中間期報告 授業改善策の達成状況	中間期見直し 授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	学校全体におけるCの生徒が4%であり、目標の1割以下において3学年×9科目の27項目のうち、約85%が達成できた。学年と教科によってはC評価が1割を超えるものが4項目ある。	変更なし
思考・判断・表現	B	学校全体におけるCの生徒が7%であり、目標の1割以下において3学年×9科目の27項目のうち、約74%が達成できた。学年と教科によってはC評価が1割を超えるものが3項目、2割を超えるものが4項目ある。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	全体の学力に関する調査では、概ねさいたま市の調査を大きく上回るが、11項目（設問）において市の平均を下回っている。特に第1学年国語における『言語の特徴や使い方に関する事項』や第2学年理科における『「粒子」を柱とする領域』に課題が見られる。各教科における基礎基本となる知識・技能を身に付けるための手立てが必要と考える。
思考・判断・表現	全体の学力に関する調査では、多くの項目でさいたま市の調査を大きく上回っている。下回っていたのは4項目であるが、第1学年理科における『「地球を柱とする領域」』において異集団経年比較でも同じ領域に課題がみられるため、知識・技能の観点とともに本校における学習の重点を意識していく必要がある。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	B	2学期末における学校全体におけるCの生徒が7%であり、目標の1割以下において3学年×9科目の27項目のうち、約70%達成できた。学年と教科によってはC評価が1割を超えるものが5項目、2割を超えるものが3項目ある。そのうち、国語科と社会科において全学年C評価が1割を超えるため、今後の授業改善や評価方法の工夫が必要である。また、さいたま市学習状況調査結果の「学びに向かう力等」において、第1・2学年の国語科が市の平均を下回り、第2学年においては、昨年度の同集団よりも課題が見られた。
思考・判断・表現	C	2学期末における学校全体におけるCの生徒が10%であり、目標の1割以下において3学年×9科目の27項目のうち、約56%達成できた。学年と教科によってはC評価が1割を超えるものが7項目、2割を超えるものが5項目ある。そのうち、社会科、数学科、G・S科において全学年C評価が1割を超えるため、今後の授業改善や評価方法の工夫が必要である。また、さいたま市学習状況調査結果の「学びに向かう力等」では、同集団において第2学年の社会科が改善の傾向である。しかし、市の平均を下回っているため、今後も引き続き主体的に学びに取り組む態度を養っていきたい。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	さいたま市学習状況調査における第1学年国語科の『言語の特徴や使い方に関する事項』の結果や本校の評価を鑑みると、次年度第2学年における国語科の知識・技能の定着が課題である。本校独自の漢字検定や定期テストにおける確認や授業における定着を図るための授業改善に重点を置く。また、各教科において、「学習指導要領解説」や「さいたま市中学校教育課程評価資料」などを確実に把握しながら、資質・能力における評価規準による評価指針を見直し、形成的な評価を適切に行いながら見方・考え方をさらに意識した授業改善を行っていく。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査において、多くの項目でさいたま市の調査を大きく上回り、思考・判断・表現における資質・能力が本校の生徒の多くが身に付いている結果と、評価におけるC評価数の現状を踏まえると、評価方法に課題があると考える。各教科において、「学習指導要領解説」や「さいたま市中学校教育課程評価資料」などを確実に把握しながら、資質・能力における評価規準による評価指針を見直し、形成的な評価を適切に行いながら見方・考え方をさらに意識した授業改善を行っていく。